

平成22年度 地域ICT利活用広域連携事業 成果報告書

実施団体名 NPO 法人メッシュサポート

代表団体名

事業名称 救急ヘリ活用型 ICT 広域医療連携事業

1. 事業実施概要

最寄の公共施設で在宅診療・介護サービスを提供する。

病院と診療所の間で患者情報を共有し地域の医療連携サービスを提供する。

離島・僻地の医療従事者向けに県立名桜大学より遠隔授業を実施する。

救急ヘリ（又はドクターカー）による救急搬送中の患者の容態変化をリアルタイムに無線・インターネットを通して共有する仕組みを構築する。

地域雇用促進及び内地からの医師・看護師等の医療従事者雇用拡大のための求人・求職マッチングサイトを構築する。

2 目標の進捗状況

(1) 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
1. 在宅診療・介護サービスにおける遠隔診療の対象6村（離島・僻地）にPCを設置して遠隔診療を実施する	PC6台	PC4台設置済 PC2台設置 予定	○	利用者にアンケート調査
2. 地域看護師、保健師等医療従事者の遠隔授業支援の対象である名桜大学にPCを設置し対象6村（遠隔診療と同じ）のPCとで遠隔授業を実施する	PC6台	PC4台設置済 PC2台設置定 予定	○	利用者にアンケート調査
3. ヘリコプター用の位置情報装置と患者情報送信装置を設置し搬送先病院とリアルタイム通信を実現する	装置の実装	100%	○	利用者にアンケート調査
4. (医療人材等) 雇用推進支援システムを導入し採用の効果を計測する	システムの稼働	1病院 1企業	○ ○	採用の実績を計測する

地域協議会の開催		3回	○	議事録
人材育成のセミナー		8回	△	実施回数

(2) 進捗率の理由（達成状況が△又は×の場合はその理由）

人材育成のセミナーは3月30日時点での実績及び予定は以下の通りです。募集の方法は開催チラシを作成し取引先への配布と電話、FAXによる募集活動を行ったが、平日は当日キャンセルがあったり、ほとんど集客ができなかった。休日については2名の参加があり4月にSalesforce導入の法人のサポートを行うことになった。

会 場：沖縄県トラック協会 研修室

住 所：沖縄県那覇市港町2丁目5番23号

講 座：クラウドコンピューティング基礎講座（1日コース）

開催日：3月21日（月）10:00～16:00 実施（参加0名）

3月24日（木）10:00～16:00 実施（参加0名）

3月25日（金）10:00～16:00 実施（参加0名）

3月27日（日）10:00～16:00 実施（参加2名）

3月28日（月）10:00～16:00 実施（参加0名）

3月29日（火）10:00～16:00 実施（参加0名）

3月30日（水）10:00～16:00 実施（参加0名）

3月31日（木）10:00～16:00 実施（参加3名）

3 事業による成果

(1) 事業による成果（アウトプット指標）

項 目	成果指数	備考(成果指数の説明等)	調査時期
参加者数（医療機関、 専門医（在宅医）、医師、 看護師、保健師など）	9	ユーザID一覧	3月15日
設置数（健診用PC）	11	設置台数一覧、自宅利用者 一覧	3月15日
設置網羅率（設置数/必 要箇所）	52%	対象地域の自治体の公共 機関数、世帯数	3月15日
利用者登録数（共通患 者ID数など）	4	ユーザID一覧	3月15日
利用件数（アクセス数、 遠隔診断対応件数な ど）	4	ログイン件数	3月15日
参加者数（利用機関な ど）	9	ユーザID一覧	3月15日
利用件数（アクセス数、	アクセス数（1）、	会議実施回数ログ一覧	3月15日

受講者数)	受講者数 (7)		
研修数	1	研修一覧	3月15日
相談件数・リピート率	0	会議実施回数ログ一覧	3月15日
参加者数 (医療機関、消防署など)	8	機関用ID一覧	3月15日
医療機関網羅率	3	機関用ID一覧	3月15日
雇用対象団体参加者数 (自治体、事業者、NPO 団体など)	2	マッチングサイトの登録団体ID一覧	3月15日
求人数	3	マッチングサイトの求人一覧	3月15日
利用者登録数(求職者数)	0	マッチングサイトの求職者一覧	3月15日
創出雇用件数 (人数)	0	マッチングサイト 就職者数一覧	3月15日
ICT人材研修参加者数	0	受講者一覧	3月15日

(2) 事業による社会的効果等 (アウトカム指標)

項目	事業成果	調査内容	算出方法	調査時期
メッシュ会員増加率	56.95%	サービス提供前とサービス提供後の会員増加率をCRMシステムの新規登録者数データを抽出する。	調査対象期間中の新規会員登録数を元に年間新規会員登録数を試算し、前年度との比較を行う。 【根拠式】 会員増加率 = 新規会員増加率 (後: 平均値) - 新規会員増加率 (前: 平均値) ・新規会員増加率: 新規会員数 (後: 年間) / 新規会員数 (前: 年間)	2011年1月、 2011年3月
MESH会	前) 9,186,000	サービス提供前とサ	調査対象期間中の新規会	2011年1月、

員収入の増加	後) 6,460,800	ービス提供後の会員収入をCRMシステムよりデータを抽出する。	員収入を元に、年間新規会員収入を試算し、前年度との比較を行う。 【根拠式】 会員収入増加=新規会員収入(後:平均値) - 新規会員収入(前:平均値) ・新規会員収入:個人会員収入(年間)	2011年3月
医療費の削減額	—	利用者に対して従前の医療費用と後の医療費用を比較するアンケートを実施する。	従前の医療費と事業後の医療費を比較してその改善状況の評価を行う。	2011年1月、 2011年3月
介護費の削減額	—	利用者に対して従前の介護費用と後の介護費用を比較するアンケートを実施する。	従前の介護費と事業後の介護費を比較してその改善状況の評価を行う。	2011年1月、 2011年3月
遠隔医療システム利用者数	4	利用者一覧をシステムより取得し、利用者数を把握する。	システムの利用件数をログより抽出する。	2011年3月
病気の早期発見件数	0	利用者に対して遠隔診療システム利用で早期発見した病気があるかのアンケートを実施する。	アンケートにおいて通院のトリガーは健康管理システムかを調査する。 【根拠】 早期発見件数=通院のトリガーは遠隔診療システムである人数。	2011年3月
健康管理の習慣づけに関する意識向上率	43%	利用者に対して自身の健康管理の意識についてどのように変わったかのアンケートを実施する。	アンケートで事後の意識改革についての評価を行う。	2011年3月
通院回数	0	従前に通院していた通院回数と通院時間についての調査及び	従前と事業後の通院回数を比較する。 【根拠】	2011年1月、 2011年3月

		事業後の通院回数のアンケートを実施する。	通院回数削減数（月）：月当たり通院回数（前）-月当たり通院回数（後）	
通院時間	0	従前に通院していた通院回数と通院時間についての調査及び事業後の通院回数のアンケートを実施する。	従前と事業後の通院時間を比較する。 【根拠】 通院時間削減時間（月）：月当たり通院回数×通院時間（前）-月当たり通院回数×通院時間（後）	2011年1月、 2011年3月
研修受講にかかる時間及びコストの削減率	移動時間の削減率：94% 移動コストの削減率：96.8%	従前に本島で開催される研修会の移動時間及び受講料についての調査し、遠隔教育を利用した場合と比較するアンケートを実施する。	従前と事業後の1講座あたりの移動時間の平均、受講料平均を比較する。 【根拠】 受講料削減率：受講料（前）-受講料（後）/受講料（前） 移動時間削減率：移動時間（前）-移動時間（後）/移動時間（前）	2011年1月、 2011年3月
医療専門職のスキル（知識）向上率	4.1	理解度アンケートを行い、スキルレベル向上を測定する。	学習についての受講目的達成度、理解度を5段階評価を行い、全体の平均値を評価する。	2011年3月
遠隔看護教育回数	1	Web会議システムの利用状況をシステムの稼働状況より把握する。	システムの利用件数をログより抽出する。	2011年1月、 2011年3月
遠隔授業、相談に対する満足度	4	相談後には必ずアンケートを取得し、満足度を測定する。	相談 j についての満足度を5段階評価を行い、全体の平均値を評価する。	2011年3月
患者モニター医療情報システムを利用した早期処置件数	3	システム利用件数を出勤記録から取得し、利用度を評価する。	救急出動ログより抽出する。	2011年3月
医療機関が患者モニタ	3.1	救急処置後に担当医療従事者にアンケート	相談 j についての満足度を5段階評価を行い、全	2011年3月

一 医療情報から送られてくるデータに基づき行う病院収容後処置に対する客観的満足度		トを取得し、満足度を測定する。	体の平均値を評価する。	
救命率	—	患者モニター医療情報システム使用後の救命率向上についてアンケートを実施する。	救命率に対して、前後比較を行う。 【根拠式】 救命率＝生存者数/全事故者数（後：平均値）－生存者数/全事故者数（前：平均値） ・全事故者数：救急出動における事故者の総数	2011年3月
就業者数	0	本システムを利用して就職した場合には、就職状態管理機能で就職状況を把握できるため就業者数が判定できる。	システムより就職者件数を抽出する。	2011年3月
出身地での就業希望者数	0	本システムを利用して就職した場合には、就職者状態管理機能で出身地を把握できるため出身地毎の就業希望者数が分かる。	システムより件数を抽出する。	2011年3月
都心部からのUターン、Iターン者数	0	本システムを利用して就職した場合には、就職者状態管理機能で出身地を把握できるため、U/Iターン者数も把握可能である。	システムより件数を抽出する。	2011年3月

定住、移住者数	0	本システムを利用して就職した場合には、求職者情報より就業希望条件を把握できるため、定住者、移住者数も把握可能である。	システムより件数を抽出する。	2011年3月
地場産業の雇用増加率	0%	本システムを利用して就職した場合には、就職状態管理機能で就職状況を把握できるため地場産業就業者数が把握できる。	本システムへ登録された企業・団体の従前のある期間における雇用状況とシステム活用後の雇用状況より試算する。	2011年1月、 2011年3月
ICT人材の増加	1	ICT研修受講者にアンケートを行い、習得スキルレベルの調査を行う。	ICTスキル項目について5段階評価でアンケートを行い。理解度3以上を集計する。	2011年3月

4 システム設計書

別添2のとおり。

<システム運用結果>

I. 在宅医療・看護支援事業

I-1. システム運用で得られた成果

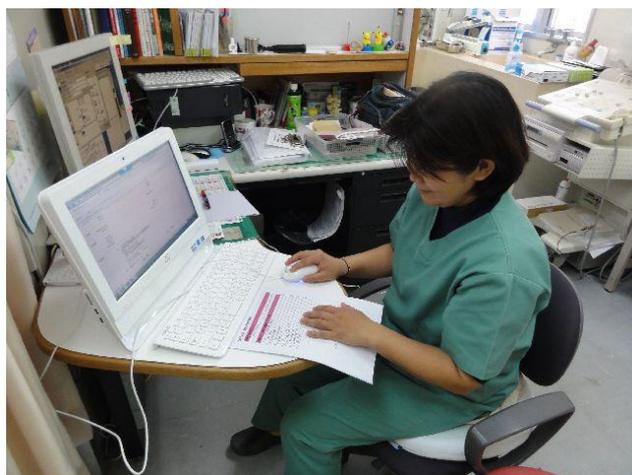
・自宅(インターネット環境が必要)又は近くの公民館等の公共施設に操作が簡単な PC 端末(ET1610PT)と病院等の診療機関と双方向 WEB 電話を活用して遠隔診療を可能とする。右の写真は、伊江島において診療所の医師が老人ホームにいる相談者と Skype を使って遠隔診療をしているところである。



さらに左の写真では、書類をカメラ越しに相手に見せているところである。



・診療機関において地域利用者の健康情報や診断情報を登録・検索・更新できること。右の写真は僻地における診療所(国頭村立診療所)の医師が、地域の基幹病院である北部地区医師会病院から患者のカルテ情報を取り寄せ、閲覧しているところである。今までは FAX で情報を取り寄せていたが、レントゲンのような画像情報は送ることができず、CD-ROM に保存したものを、北部医



師会病院まで行ってもらう必要があり、時間と手間がかかっていた。

左の写真は、北部地区医師会病院のシステム課で国頭村診療所の患者の同意の下、患者情報提供の手続きを行い、病院側システムから、本システムへデータを取り込んでいるところである。システム的にはまだ改良すべきところは多いが、これによって、病診連携や、さらには診療所間同士での情報共有が可能となり診診連



携が実現できる。さらに地域利用者の健康情報や診断情報は「平成 21 年度総務省 ICT 利活用ふるさと元気事業」で構築した健康管理支援システム(那覇市内サーバ設置)及びメッシュ・サポートの会員管理をしているセールフォースドットコム(CRMシステム)と連携を図ることによって、カルテ情報と日常的な健康データや健康診断の時系列データの結果も同時に閲覧することが可能なので、医療の質的向上に貢献することができる。

I-2. 平成 22 年度事業実施において明らかとなった課題

健康ネットを利用した健康診断の結果や日常的な健康データをいかに入力するか、健康に関する意識を向上させて自ら入力してもらうか、高齢者や自分で入力できない人には、援助者が効率よく支援するしくみを確立することが課題となる。

I-3. 自律的・継続的運営の見込み

地域協議会構成者である自治体住民課、健康福祉課を中心に活動を実施したが、高齢者の多いこの地域で日常の健康情報の蓄積を行政組織を中心とした地域協議会のメンバーが支援することは事実上困難であるということが判明した。

この問題を解決するために、名桜大学看護学科とタイアップし看護学生の実習やボランティアの協力を得るとともに、集団検診や、老人ホームへの介護実習等、地域住民の集まる機会をとらえ、効率よく情報を収集できる仕組みを検討することとした。

I-4. 今後の展開方針

地域医療の担い手となる北部地区医師会病院、診療所の医療関係者にアンケートを実施したところ、病診連携・診診連携のツールとして利用したいという意見が多かったため、運用方法を拡大し実施することとなった。

その結果、北部地区住民の健康情報(日常の健康情報、定期的な健康診断情報、病診連携・診診連携の情報)を地域で共有する仕組みが達成できた。

今後は官学民(村役場・大学・病院・診療所)連携で救急医療から住民の日常の健康管理までをトータルでサポートできる仕組(救急へり活用型 ICT 広域医療連携事業)として展開していきたい。

I-5. 以下に説明図 I-1 を添付する



II. 遠隔授業支援事業

II-1. システム運用で得られた成果

・Web を用いた双方向学習及び個別相談ができること。
右上の写真は名楼大学看護学科の教授・講師が、右下写真の伊平屋村立役場の看護師・職員(この時は村長も同席された)と Skype を使って意見交換を行っている場面である。



・アプリケーション連携や Web ページの共有ができること。・遠隔教育システムのスケジュールリング及びメールによるスケジュール通知が可能なこと。アプリケーションの連携や Web ページの共有、およびスケジュール機能はこの授業の中では実施しなかった。その理由は Skype とは別の機能として実現できる機能のためだからである。

・ホワイトボードやチャットができること。Slype にはホワイトボードとチャット機能が備わっており画像を共有したり、書き込みを双方向で同時に行うことができるので、情報の共有に有益であった。



・授業内容の録画・再生ができること。この機能は授業の中では実施しなかったが、PC の標準機能として備えていたため Skype とは別機能である為、機種が変わったときは条件が変わる可能性がある為である。

II-2. 平成 22 年度事業実施において明らかとなった課題

名楼大学では、以前から大学として遠隔授業を行ってきた実績があり操作に慣れている。さらに遠隔授業実施の際には、大学から専門家が機器のセッティングに同行してくれるという体制が整っていた。

しかしながら本事業における地域看護師、保健師等は遠隔授業に馴染みがなく専門家がセッティングをしてくれる体制もとれない。

そのために、経験や知識がないという前提で事業を行わなければならない使用時にいかに簡単に操作できるかが課題である。

II-3. 自律的・継続的運営の見込み

今回採用した機器は本体とディスプレイが一体型のデスクトップパソコンで Web カメラとマイクとスピーカーが内蔵されている機種を選定したため、設置した名楼大学と伊平屋村役場で

アンケートを実施した結果、操作が簡単で専門家にセッティングしてもらわなくても映像・音質も実用的な範囲で、必要な時に簡単に使えることがわかった。

Ⅱ-4. 今後の展開方針

今回は名桜大学側 5 名、伊平屋村役場側 7 名で実施したが、10 名以上の場合は大型テレビまたはプロジェクターに接続するなどの工夫をしたり、複数個所で同時に参加できるようなバージョンアップをして、活用の範囲を広げていきたい。

Ⅱ-5. 以下に説明図Ⅱ-1を添付する

名楼大学



遠隔授業



伊平屋村役場

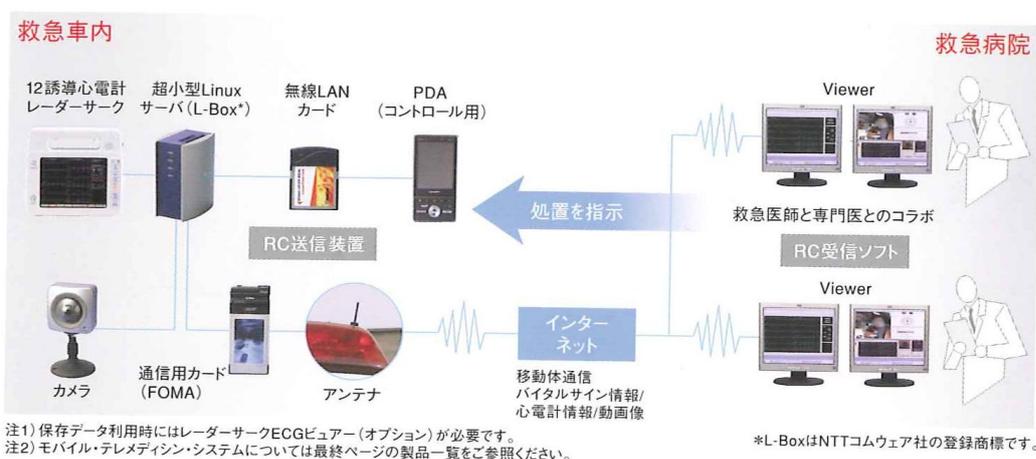
Ⅲ. 救急搬送時患者情報システム

Ⅲ-1. システム運用で得られた成果

・MESH 救急ヘリに搭載している各種モニター（レーダーサーク）の測定医療情報（EMS 情報装置）を受入病院（汎用 PC）にリアルタイムでインターネットを経由して送信できること。右の写真はヘリコプターに搭載した EMS 情報装置である。EMS 情報装置はレーダーサーク、超小型サーバー、カメラ、FOMA 端末、アンテナで構成されている。



下の図がその概念図である



- ・ヘリコプターには D-Nas Pochi II を搭載し救急移送中の位置情報をインターネットへ送信し、消防指令センター、救急車、受入病院等には D-Nas Web を使って確認することができる。
- ・ヘリからのインターネットの利用に当たっては、搭載機器の製造・改良の豊富な経験を有し且つ航空法、電波上の法的規制要件をクリアし下記の無線局の指定を受けた。

①電波法による無線局の分類(第3条関係)

無線局	無線局数	目的	種別
MESH ヘリ医療業務用基地無線局	1局	医療・福祉用	携帯基地局
MESH ヘリ搭載医療業務用無線局	1局	医療・福祉用	携帯局
MESH ヘリ搭載消防・救急用無線局	1局	消防用	携帯局

②無線局の免許人(第4条、第6条関係)

無線局	呼出名称	免許人	運用者
MESH ヘリ医療業務用基地無線局	ほくぶいしかいびょういん	乙	乙、丙
MESH ヘリ搭載医療業務用無線局	おきなわ MESH ヘリ1	乙	乙、丙
MESH ヘリ搭載消防・救急用無線局	おきなわ MESH ヘリ1	丁	乙、丙

③無線設備の所有者(第8条、第10条関係)

無線局	呼出名称	無線設備概要	所有者
MESH ヘリ医療業務用基地無線局	ほくぶいしかいびょういん	送受信機、遠隔制御器、空中線等	甲
MESH ヘリ搭載医療業務用無線局	おきなわ MESH ヘリ1	送受信機、コントローラー、空中線等	甲
MESH ヘリ搭載消防・救急用無線局	おきなわ MESH ヘリ1		甲

④無線設備の配置(第11条関係)

無線局	無線設備	設置/常置	住所
MESH ヘリ医療業務用基地無線局	送受信機、遠隔制御装置(親機)、空中線等	設置	沖縄県名護市字仲尾次 1577-2 ホテルタニューウェルネスリゾートオキナワ
	遠隔制御装置(子機)	設置	沖縄県名護市字宇茂佐 1712-3 北部地区医師会病院内
MESH ヘリ搭載医療業務用無線局	送受信機、コントローラー 空中線等	常置	沖縄県名護市字宇茂佐 1712-3 北部地区医師会病院内
MESH ヘリ搭載消防・救急用無線局			

- ・一次搬送先病院及び二次搬送先病院へ患者を搬送する場合、当該病院とヘリが直接話ができる通信手段として有線無線切替装置を導入し、MESHヘリからの無線を北部地区医師会病院が受け、その無線を一般電話につなぎ、その電話で目的先とMESHヘリが直接会話できるようになった。

III-2. 平成22年度事業実施において明らかとなった課題

本事業は、MESH 救急ヘリに搭載している、多機能心電計(レーダーサーク)の患者モニター医療情報を受け入れ病院にリアルタイムでインターネットを経由して送信することができる、全国でも初めての試みである。

事業実施の結果、本事業で明らかになった課題は、レーダーサークの取り外をした後、再装着をするとシステムの再起動に時間がかかることや、高高度を飛行すると電波が不安定になるという課題が明らかになった。

III-3. 自律的・継続的運営の見込み

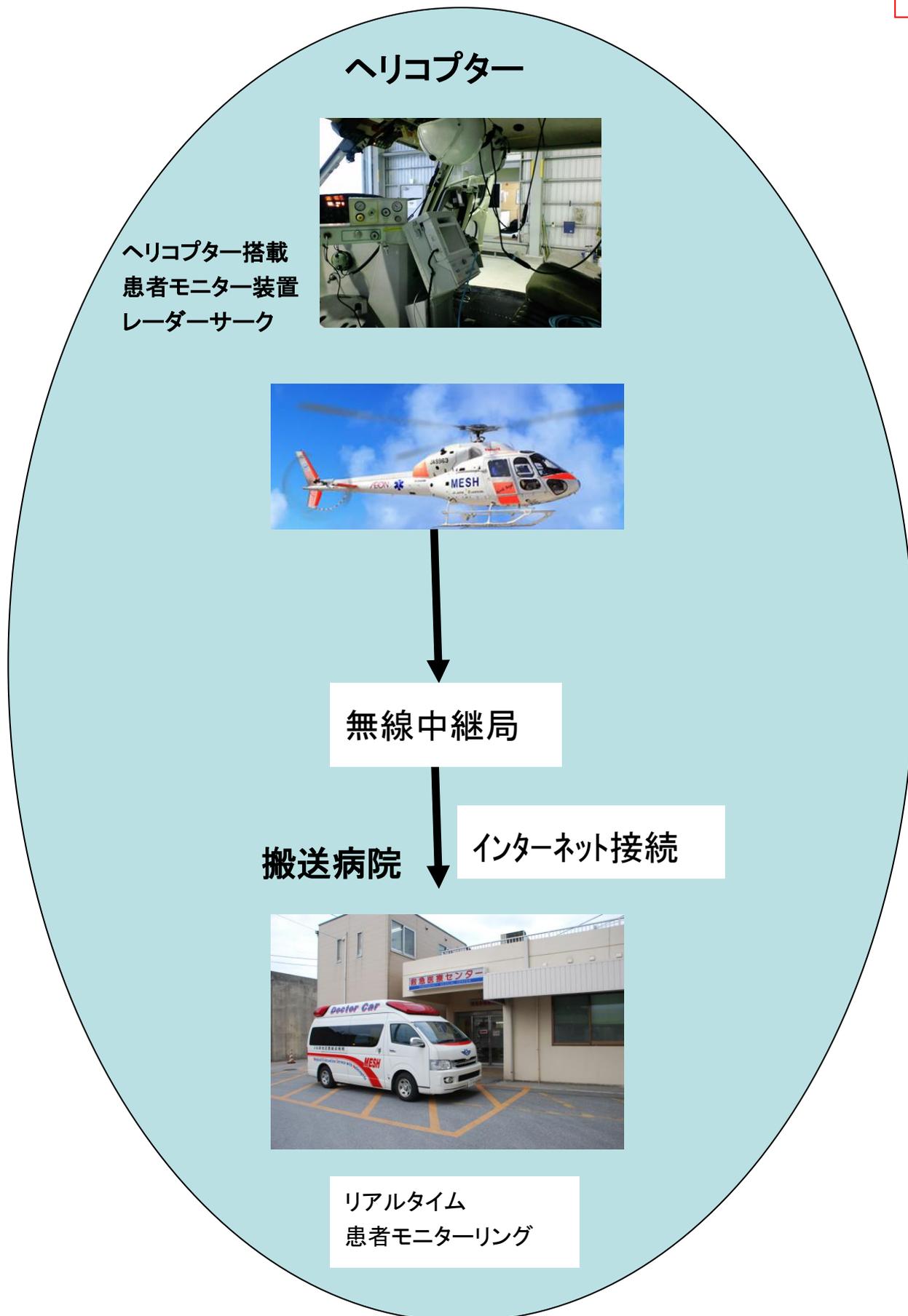
今回採用したシステムは、①のような課題があるが運用でカバーできる範囲であり、北部医師会病院の救急室の医師及び、看護師9名にアンケート調査を実施したところ、「医療機関が患者モニター医療情報」から送られてくるデータに基づき行う病院収容後処置に関する客観的満足度は3.1(5段階加重平均)と有意であるとの結果が出ている。

すでにシステムは稼働しており北部医師会病院での利用は成果を出しているため、自律的・継続的運営は十分見込まれる。

Ⅲ-4. 今後の展開方針

今後の展開は、北部医師会病院以外の三次病院に搬送される場合にも、利用できるようにシステムを拡張して、救急搬送患者情報の広域連携を実現することができれば、救命医療の発展に大きく貢献できるものと思われる。

Ⅲ-5. 以下に説明図Ⅲ-1を添付する



IV. 地域雇用支援

IV-1. システム運用で得られた成果

右の写真は求人募集に登録していただいた那覇市内の一般企業の社内風景で、下記の入力作業をしているところである。

- Web より求職者情報(氏名、住所、希望条件等)の登録。
- Web より求人企業情報(企業名、事業内容、特徴等)及び求人情報の登録。



左の写真は、入力の結果作成された求人ページである。

NPO法人 MESH 求人サポート

採用企業名 有限会社メディアウェブ

最先端のお仕事しませんか？
最先端の技術を学びながら楽しく働きますか？
弊社はほとんどの従業員が中級者経験からのスタートです。
経験や技術がなくても、仕事に一生懸命で真りと仲良くできる明るい人を採用しています！
また、弊社では会社主催の社内レクリエーションも行っており、
春夏秋は沖縄らしく海遊びやビーチパーティー、
冬は屋内スポーツイベントなど、
従業員同士のコミュニケーションの活性化やリフレッシュにつながっています。



ビーチパーティーでの記念撮影

未経験者のための社内研修 (PHPを中心としたWEB系プログラミング講座) も実施しています。
気になる方はお気軽にご相談ください！



先着が後着に奪われる場を(作り

企業概要	
事業内容	広告代理店事業 モバイルコンテンツ事業 SEO・SEM事業
主力製品・サービス	情報キャリア公式サイト
代表者 (および親族名)	仲里 俊秀
本社所在地	〒900-8025 沖縄県那覇市豊川3-4-26 芥ヶ丘ビル
その他事業所	東京営業所 札幌営業所

採用・求人情報一覧	
職種名	仕事内容
プログラマー	WEBプログラマー

利用規約
Copyright(C)2011 NPO MESH Support All Rights Reserved.

IV-2. 平成 22 年度事業実施において明らかになった課題

本事業は、地域の未就業者の雇用拡大および、医師・看護師等の医療従事者の雇用促進のための「ICT 人材・医療求人・求人支援サイト」の構築を目指したものである。

会員の求人企業、医療機関は無償で求人サイトを利用することができるのでニーズは高いと思われるが、求人専門会社が介入するのではなく応募者管理から採用まで求人企業側で行う為、できるだけ手間をかけないで運用することが課題である。

IV-3. 自律的・継続的運営の見込み

システムの運用にはクラウドコンピューティング（セールスフォース・ドットコム）を使う為 ICT 教育等を活用して IT スキルを持った人材を増やし自律的に活用したり、支援できる人材を育て、継続的に運営できる体制を整える。

IV-4. 今後の展開方針

採用するシステムはセールスフォース・ドットコムのフリーエディションと呼ばれる無料ソフトのため、メッシュサポートの会員企業以外でも使いたいというニーズが期待できる。結果的にそれが会員の増加につながるように展開する方針である。

IV-5. 以下に説明図 IV-1 を添付する

募集企業



募集登録



雇用マッチング

応募



応募者

<人材育成状況説明書>

①申請主体におけるICT人材の育成・活用内容

1 ICT人材の育成人数

5名

2 ICT人材の育成方法

沖縄県トラック協会のIT研修室定員10名を下記のスケジュールで借り上げ講習会を実施した。

3月21日(月)	10:00~16:00	実施(参加0名)
3月24日(木)	10:00~16:00	実施(参加0名)
3月25日(金)	10:00~16:00	実施(参加0名)
3月27日(日)	10:00~16:00	実施(参加2名)
3月28日(月)	10:00~16:00	実施(参加0名)
3月29日(火)	10:00~16:00	実施(参加0名)
3月30日(水)	10:00~16:00	実施(参加0名)
3月31日(木)	10:00~16:00	実施(参加3名)

3 1で育成等したICT人材の活用人数

3名

4 ICT人材の活用方法

雇用支援システムの導入サポート及び運用サポート

在宅診療・介護システムの導入サポート及び運用サポート

遠隔授業システムの導入サポート及び運用サポート

5 次年度以降のICT人材の育成・活用内容(予定)

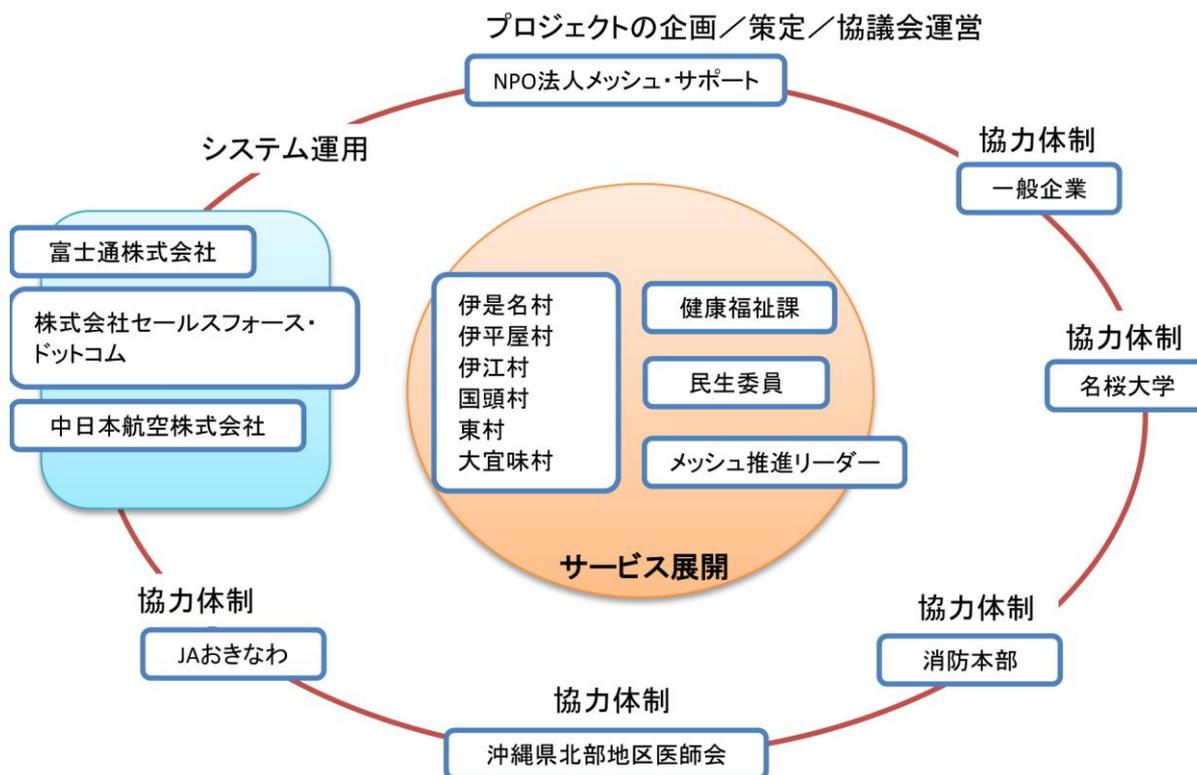
地元の専門学校とタイアップしてSalesforceコースを作り、継続的に人材育成のできる環境を構築する

②事業運営主体におけるICT人材の育成・活用内容

事業運営主体と申請主体が同一の為、省略

<実施体制説明書>

1 実施体制



2. 各主体の役割

No.	氏名・団体名	役割
1	NPO 法人メッシュ・サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会の運営調整、日程調整 ・メッシュ推進リーダーの募集、教育 ・健康イベントの企画(市町村、医師会等との協働企画)
2	伊是名村・伊平屋村・伊江村 国頭村・東村・大宜味村 (健康福祉課、社会福祉協議会)	<ul style="list-style-type: none"> ・メッシュサポーター及び推進リーダー募集受付窓口(メッシュサポーター加入・普及支援) ・メッシュ推進活動、リーダー募集の広報(村営ホームページ内告知、村営紙への掲載、ちらし配布)、問い合わせ対応協力 ・地域協議会、ICT 人材教育の会場提供、 ・メッシュユイマル健康ネットへの健康データ入力の積極推進。 ・健康イベントの企画(メッシュとの協働企画)
3	メッシュ推進リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ・健康ポータルサイトの会員募集、会員への操作指導 ・会員の健康データ(日々の健康情報、健康診断情報)を代行入力 ・メッシュへの理解と支援の呼びかけ ・健康イベントの企画(市町村との協働)
4	沖縄県北部地区医師会 (会員医療機関)	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔医療連携・在宅医療・看護支援の対応 ・蓄積された健康データの医療現場での活用(生活及び食事指導、診療での活用等) ・健康イベントの開催協力
5	国頭地区消防本部 (本部今帰仁消防本部、名護市消防本部)	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県北部の消防機関として、MESH 救急ヘリと連携し急患搬送システムをメッシュ救急ヘリと連携して実際の救命救急活動に参加する。 ・防災イベントの企画・協力
6	名桜大学	<ul style="list-style-type: none"> ・離島(遠隔地)における看護教育、指導、支援 ・健康増進イベント開催協力 ・メッシュ推進リーダー(ボランティア)募集協力
7	富士通株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT システム開発を行う。またプロジェクト・マネージャーと連携し、事業推進と評価、改善を行う。
8	株式会社セールスフォース・ドットコム	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の ICT 基盤としてのクラウド・コンピューティング・サービスを提供する。
9	中日本航空株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・急患搬送支援システムの開発、MESH 救急ヘリの運航を行う。 ・消防、離島診療所との実際のコミュニケーションを行う。
10	JA おきなわ(オブザーバー)	<ul style="list-style-type: none"> ・JA の健康推進普及活動を通じて協力

事業実施進行表

実施内容	9月	10月	11月	12月	H23	2月	3月
				(予定)	1月 (予定)	(予定)	(予定)
協議会等設立・準備 会合（6村個別協議）	△	△					
協議会等開催			△	△		△	
システム構成の検 討・決定			→				
システム構築に係る プロポーザル選定			→				
システム設計				→			
システム構築					→		
システムテスト稼働							→
メッシュ推進リーダ ー育成・啓蒙							→
メッシュ推進リーダ ー活用							→
報告書作成							→

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト
現時点ではまだ作成されていない。